

Essay

Sapiarc.com

2010年3月1日 (2010-03)

近ごろわからないこと

近ごろわからないことが多い。これは、自分の年齢が上がって、世の中の動きとズレが生じているのかもしれないが、そうとも思えないときもある。ひとつの理由としては、定職に付いていないと、元よりは時間があるため、かつては自分には関係がないという理由で簡単に無視してしまっていたことにも関心が向くということがある。そうすると、わからないこと、変だなと思うことに気付くのだ。それらをいちいち取り上げると、際限がなくなりそうだ。ここではひとつだけ、トヨタ車のリコールに関連する問題について、私がわからないことを書いておこう。

運転者が意図しない急加速、ブレーキの不具合、さらにはステアリング関係まで、トヨタ車について問題があとからあとからと出て、結局、アメリカ議会の公聴会に豊田章男社長が出席した。そこでは、3時間以上にわたって、厳しい雰囲気での質疑応答があった。この問題に関する公聴会はそれで済んだというわけではなく、今後またトヨタの副社長を呼ぶらしい。

この問題について、私がわからないことは、トヨタは何故ここまで問題をこじらせたのかということだ。アメリカで営業を始めて50年にもなり、アメリカで大規模生産をしている会社なのだから、アメリカ人の物の考え方やアメリカ社会の動きにもっと敏感であって当然だと思うのだが、結果から見るとどうもそうではないらしい。これまでに訴訟を受けたことはかなりあるそ

うだが、そういう経験が生かされたようでもない。

私が非常に違和感をもったのは、豊田社長が公聴会で何度も陳謝したということだ。アメリカで問題に巻き込まれたときに、apologyとかapologizeという言葉は決して使ってはいけないこと、I'm sorryとも言ってはいけないということは、私が45年前にアメリカに1年間滞在したときから、耳にタコができるほど聞かされてきたことである。これが、その後日本にも伝染したようで、交通事故を起こしたとき謝るなどというのは、今では常識になっていると思う。

豊田社長が、そういう常識をもっていなかったとは考えにくいことで、彼が万一知らなかったとしても、今回のような大事なときに、誰かが当然アドバイスしていたはずだと思う。それにも拘わらず、あえて逆の行動を取ったのは、それが戦術として優れているという読みでもあったのだろうか。何故そんな読みが出て来たのか、私にはわからない。

3月1日の朝日新聞朝刊に、『「急加速」のトヨタ車 米当局が購入』という記事が掲載された。その内容は、「急加速」の経験を公聴会で泣きながら証言したロンダ・スミスという女性のレクサス ES360 を、アメリカ運輸省高速道路交通安全局が買い取って、調査するというものなのだが、この記事を読むと、彼女が経験した「急加速」という「事故」は一体何だったのかと言

たくなるのだ。ロンダ・スミスはその車に走行距離約 4,800 km まで乗って、2006 年に売っており、それを買った人はその後の約 4 年間で走行距離を 48,000 km まで伸ばしたが、「事故」の申立てはしていない。つまり、「事故」はなかったらしい。「事故」が 4 年も前のことだったのに、今になって大事件のようになるのは何故なのか、わからないことだ。また、その間に、トヨタはその車をきちんと調査したわけでもないらしい。これは手抜きだと思えるのだが、何故放置していたのかはわからない。

社長が公の場で謝ってしまった以上、この問題に絡んで起こされる可能性のある訴訟でトヨタは決定的に不利になるのではなかろうか。裁判は長引くだろうが、最終的にトヨタは大きな賠償金を払うことになるのではないか。トヨタには、それを回避する手立てがあるのだろうか。要するに、私にはわからないことばかりなのだ。（おわり）